

トピックス

掌蹠膿疱症とマイクロバイオーム

黒木香奈

愛媛大学大学院皮膚科学

愛媛医学 37(3): 79-82, 2018

トピックス

膀胱癌に対するGC療法施行後の耐性獲得機序の解明

浅井聖史¹⁾, 菊川忠彦¹⁾, 白戸玲臣²⁾, 三浦徳宣¹⁾, 丹司望³⁾, 雑賀隆史¹⁾
1) 愛媛大学大学院泌尿器科学 2) 松山赤十字病院泌尿器科 3) 放射線第一病院泌尿器科

愛媛医学 37(3): 83-86, 2018

エディトリアル

子どもとメディアの関わり

鈴木由香

松山赤十字病院小児科

愛媛医学 37(3): 87-88, 2018

エディトリアル

気管支喘息患者のリアルワールド

兼松貴則

松山赤十字病院呼吸器内科

愛媛医学 37(3): 89-89, 2018

原 著

子どものメディア使用の実態

福田光成¹⁾, 堀内史枝²⁾

1) 愛媛県立新居浜病院小児科 2) 愛媛大学医学部附属病院子どものこころセンター

【要 旨】

目的：現代社会では乳幼児期の子どもが様々なメディアに接する機会が増大している。子どものメディア使用が心身発達に影響を与えるとの報告は複数あるが、睡眠に与える影響についての報告は少ない。そこでメディアの使用が子どもの睡眠に与える

影響を明らかにすることを旨し、まず今回は幼児及び学童のメディア使用の現状について調査を行った。方法：愛媛大学医学部附属病院の受診者（幼稚園～学童／3～12歳の小児）で本調査に同意を頂いた児を対象に、子どもへの各種メディアの暴露の状況について、保護者からのアンケート調査を行った。結果：45名の幼児及び学童の保護者から本研究の同意を得られた。最も使用しているメディアはテレビで、半数が0歳からの早期暴露であり、1日の使用時間も長いことが明らかとなった。また持ち運びの簡単な携帯ゲームは、子ども部屋での使用が小学生になると増えることが明らかとなった。結論：幼児及び学童の子どもが最も使用しているメディアはテレビであり、0歳からの早期かつ長時間の暴露が明らかとなった。

KeyWords：乳幼児，学童，メディア

【Abstract】

Objective: Social media (SM) use has been associated with psychosocial development and disturbed sleep. However, previous studies have not elucidated the specific importance of SM use in children. We investigated the current state of SM use in children.

Methods: We assessed 45 children aged 3–12 years at Ehime University Hospital, using a questionnaire completed by parents.

Result: The most frequently-used form of SM was television, which was used from 0 years old and for extended durations. Children over elementary school age frequently used portable games in their rooms.

Conclusion: Television was the most frequently used SM from an early age.

KeyWords: infant, children, social media

愛媛医学 37(3): 90–93, 2018

原 著

気管支喘息の増悪に対するレルベアとシムビコートの予防効果

片山均¹⁾，仙波真由子²⁾，三好誠吾²⁾，濱口直彦²⁾，大藏隆文²⁾，檜垣實男²⁾

1) 三瀬医院内科

2) 愛媛大学大学院循環器・呼吸器・腎高血圧内科学

【要 旨】

目的：レルベアとシムビコートの気管支喘息の増悪に対する効果を明らかにする。
方法：2010年1月から2016年1月までに愛媛大学医学部附属病院にてレルベアまたはシムビコートを開始された、18歳以上の気管支喘息の男女を対象に、各薬剤の開始から1年間における初回増悪までの期間について後ろ向きに検討した。結果：傾向スコアマッチングを行ったレルベア群とシムビコート群の各36例におい

て、増悪までの期間に有意差を認めなかったが、全身ステロイドの短期間投与までの期間、およびICS/LABAによる治療期間はレルベア群で有意に長かった。結論：レルベアはシムビコートよりも全身ステロイドの短期間投与までの期間を延長させ、その効果はレルベアの治療継続率の高さと関連していると推察された。

KeyWords：気管支喘息，吸入ステロイド薬／長時間作用性 β_2 刺激薬配合剤，傾向スコアマッチング

【Abstract】

Aims：This study aimed to clarify the preventive effect of Relvar and Symbicort on exacerbations of bronchial asthma.

Methods：From January 2010 to January 2016, we retrospectively analyzed the effects of Relvar and Symbicort for preventing asthma exacerbation during 1 year in men and women aged >18 years with asthma at Ehime University Hospital. Patients were divided into two groups of 36 propensity scorematched patients, one treated with Relvar and one treated with Symbicort.

Results：Although there were no differences in the duration of exacerbations between groups both the duration of short courses of systemic steroids and the treatment period with inhaled corticosteroid/longacting β_2 agonist were longer in the Relvar group than in the Symbicort group.

Conclusion：Relvar delays short courses of systemic steroids and the effects are likely related to treatmentperiod.

KeyWords：bronchialasthma, inhaledcorticosteroidandlong-acting β_2 agonist combination, propensity score matching

愛媛医学 37(3)：94-99, 2018

研究会抄録

愛媛脳神経外科懇話会 第116回 学術集会

愛媛医学 37(3)：100-102, 2018

第19回 愛媛肛門疾患懇話会

愛媛医学 37(3)：103-105, 2018

第152回 愛媛整形外科集談会

愛媛医学 37(3)：106-110, 2018